

地域資源と連携した発達障がい児の心の支援プログラムの開発と実践研究

特定非営利活動法人はなしのぶ

〒534-0001 大阪府大阪市都島区毛馬町 4 丁目 6 番 6 - 408 号

助成事業の概要

（目的）

発達障がい児を支援している専門家を講師に迎え、地域の教師・保育士等や大学生とともに、思春期の発達障がい児とその保護者を対象として「怒りのコントロール」「ストレスマネジメント」のプログラムの開発のための会議を行い、支援プログラムの一連のパッケージ化と、そのプログラムの実施、またHPを活用した情報提供の普及を図る。

（実施時期）

1) プログラムの開発（作成会議）

平成 25 年 7 月 27 日 午後 2 時～5 時

2) プログラムの実施（5 回）

平成 25 年 8/31 9/22 10/20 11/17 12/22

午後 4 時～6 時

（内容）

1) 思春期の発達障がいのある人への支援を実施している専門家 2 名と地域で支援を実施している専門家 5 名とともに、ストレスマネジメントの支援プログラムを開発のための会議を実施した。

2) 発達障がい児への支援を実施している専門家 1 名を講師に迎え、地域で支援を実施している有償ボランティア 5 名とともに、1) で開発したプログラムを発達障がい児に実践した。

事業の成果

・計画していた事業を実施できたことで、自己理解やストレスの軽減につながるためのプログラムを開発するという目的については概ね達成できた。

実践研究については、児童への成果には、児童の様子からも全員がここでのプログラムや支援者との関わりを通して、自分の長所、ストレスの原因と対処方法、適切な援助要求などを正しく理解し、その方略を身につけることが、ある程度達成できた。しかし達成のレベルや参加へのモチベーションには個人差があり、特に小学校高学年の児童に効果のあるプログラム、また実践方法であったことが確認できた。今回は幅広く小学生から中学生までの男女に実施したことで、その利点と弊害があったこと。この場所に来て、適切な支援のもと、同じような仲間と過ごすこと自体が、ストレスの軽減や自尊心の向上につながっていると伺えることから、この事業を継続して実施するためのシステムの構築が課題であることも確認できた。実施後の保護者アンケートの集計より、事業に対する評価は高いものの、終了することへの不安も伺える。児童への支援という事業を行う中で、今回のような「宿題や予習を一緒にやる」という形式だけではなく、保護者の育ちに関連する直接支援の事業を並行して行う必要性を感じた。

・このプログラムの普及方法であるが、資料だけが一人歩きするのではなく、資料作成会議での議案にもあった「すべての支援者の一貫性のある対応」が重要になってくるため、この資料が広く活用されるようになるためには、それらの伝え方を検討する必要がある、どのような形が効果的にまた適切な形での波及性があるのかを模索していくことが課題である。

■ 成果の広報、公表

当法人のブログにて、プログラムの実践研究の(1) 実施日時、(2) 場所、(3) 写真など計 5 回の教室の様子を掲載した。また作成したプログラムの資料、実践の成果をまとめたデータ（PDF）は、児童の写真を割愛し、閲覧のみ可能（印刷不可）のものを、当法人のブログより、対象を不特定多数として、ダウンロードできるように公表した。助成金により購入し作成したCD-R（印刷可能のPDF データ、原本をコピーしたword データ）の配布方法については、事業の成果に記述した事情により、当法人ブログにも掲載しているが、ブログに掲載したPDF データを閲覧後、データの受け取りの希望者に、メールで連絡をいただき、使用方法について電話での説明後、当法人より郵送することとした。現在、3 団体より希望があり、配布を行った。

■ 今後の展開

・保護者研修を実施しない場合の保護者への支援プログラムの在り方、ネットを活用したペアレント・トレーニング教室・保護者向けの通信教育などの開発の検討。

面談での相談以外の相談手段の確立。